

細胞診の未来、 自動支援装置から Digital化への展望

座長

長村 義之 先生

慶應義塾大学医学部 客員教授
医療法人社団こうかん会 日本鋼管病院 病理診断科 部長

[概要]

近年において液状化検体細胞診(LBC)の普及は目覚ましいものがあります。今後は、遺伝子検査や免疫組織化学など追加検索への応用、自動支援装置による診断の自動化や効率化、そしてデジタル化への実現が課題となってまいります。しかし、これまで世界の状況と本邦における最新動向、また臨床現場での状況を分かり易く考える機会は限られておりました。そこで今回は、長村義之先生を座長にお迎えし、3名の演者に御登壇頂き、様々な立場から細胞診断の未来像と今後の展開について考えます。

演者

前田 一郎 先生

北里大学北里研究所病院
病理診断科 部長

演者

松並 平晋 先生

医療法人社団 EVEウィメンズクリニック
細胞診精度管理顧問

演者

林 直樹 先生

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
臨床検査・病理技術科 担当員

日時 | 2022年6月11日(土) 12:10~13:10

会場 | 第5会場 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 1F 暁光

■ 整理券について

ランチョンセミナーは整理券制です。当日の朝、下記にて配布いたします。

場 所：配布場所：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 1階

配布時間：6月11日(土) 7:30~11:40 (詳しくは、学会ホームページをご参照ください：<https://www.jbcc2022.jp/>)

整理券はセミナー開始時間5分後以降無効となりますのでご注意ください